

多摩東グループ活動通信

第8回 Iのまち いなぎ市民祭りに参加しました

東京稲城RC クラブ広報委員長 向井 俊右

10月24日と25日の両日、「第8回 Iのまち いなぎ市民祭り」が開催されましたが、東京稲城ロータリークラブは、今年もロータリークラブのコーナーを設けて参加しました。一人ひとりに、好きな写真を持って来ていただき、来年用のオリジナルカレンダーを無料で作製するサービスは、毎年市民に大変好評です。それに合わせてチャリティ募金を受け付けましたが、この募金は稲城市社会福祉協議会にそのまま寄付され、福祉事業に活用されます。また、今年クラブの奉仕活動の一端を、より広く地域の皆さんに発信するために、クラブ創立35周年記念として、稲城市消防本部に多目的広報車を寄贈したことや、2007-08年度ガバナー賞を受賞した、知的しょうがい児(者)の社会参加を支援する、造形体験教室の模様など、



私たちが行っている地域への奉仕活動の写真展示を行いました。この展示には、ブラジルから迎え入れている、青少年交換留学生の高校生にも手伝いをしてもらいました。以前に米山奨学生としてクラブをたびたび訪れていた、韓国からの留学生OBも、クラブのコーナーに顔を見せてくれ、互いに再会を喜び合いました。

さらに最近大きな社会問題となっている、禁止薬物の乱用防止の小冊子及び「今こそストップ! 薬物乱用」と記したボールペンの配布により禁止薬物使用の撲滅の訴えを、全会員が市民祭りの会場で行うなど、充実した奉仕活動ができました。

また、新会員募集用のジグソーパズルを模したポスターを掲示して会員増強の活動も合わせて行ないました。

継続事業「森林間伐体験学習」と新規事業「農工大留学生支援交流」 東京武蔵府中RC 幹事 濃畑 雄四郎

当クラブの継続事業であります「森林間伐体験学習」は、好評のうちに3回目の実施となりました。本年も8月5～6日に府中市の友好都市であります長野県の佐久穂町と地元の千曲川ロータリークラブの協力を得て、八ヶ岳の麓で開催しました。府中市を中心とする小・中学生や保護者、ロータリアン、米山奨学生がこれに参加、森林間伐の意義と水源としての森林の大切さを共に学びました。指導は今年も元東京農工大学助教授の古林賢恒先生にお願いしました。



間伐で切り倒した木の上で参加した子供たちと

新しい事業としては、東京農工大学留学生、特に10月に来日したばかりの留学生に対する支援事業を開始しました。テーマは「日本の稲作文化と伝統行事」とし、大國魂神社の全面的な協力を得て、抜穂祭(10月)、新嘗祭(11月)、例会招待(11月)、餅つき(12月)、節分祭(2月)などを通じ、日本の文化に接してもらおう形で日本理解を深めてもらおうという趣旨で、現在、好評の内に進行している事業であります。

その他支援事業として、府中市国際交流サロンにおける外国人日本語学習発表会(9月)、14回目を迎えた人権作文発表会(12月)も盛会の内に無事終了しました。



抜穂祭で御神田の稲を収穫する農工大留学生

